

一面の青空の下 守屋山と霧訪山

K1

好展望の

花の百名山

【守屋山】

座禅草コースと書かれた先



の分杭平の看板には『花の百名山』と書かれザゼンソウ、クリンソウ、ツツジ等の文字がある。九輪草(クニシキ)と思われる芽吹き始めの葉は見つけられる。

里芋科の水芭蕉か或いは座禅草の葉らしき株はほんの数株見つかるが、ともに花は見つからない。帰りに探すと水芭蕉(ツバキ)も座禅草(クニシキ)も3株程度有刺鉄線の囲いの中に花が咲いていた。有刺鉄線は猪から守るためだろう。牧牛も切羽詰まると有毒の蓮華躑躅(クニシキ)を食べると聞いたが、猪は有毒の水芭蕉、座禅草をも食べる



のであろうか？都会からはますます自然が消え、地方や山里はますます荒れていってしまふのだろうか。

埼玉と異なりまだ木々は芽吹いておらず花は殆ど見当たらない。雲も見当たらない。展望を期待し、ゆっくり足を進める。

東峰、西峰ともに四方八方の山々が見渡せる。出会った登山者に山名を詳しく教えて戴く。南アは甲斐駒、北岳、仙丈更に遠く塩見、赤石と続いている。中央アルプスも北



アルプス穂高連峰も白い。雪の着いていない槍も垣間見える。雪の少ない八ヶ岳も良く見えるが赤岳は隠れている。眼下には諏訪湖や街並みも見渡せるが、守屋山を御神体とする諏訪神社は見つけられなかった。

晴天の下の展望を存分に楽しみ下山する。

むだれ栗森林公園

キャンプ場

19日〜20日

夕食には山菜天ぷらを予定していた。が、僅かに守屋山に頭上高く小さな芽を持った大きな山葡萄(ヤマブドウ)と思われる蔓があるくらいで、まだ長野の山々は芽吹いていない。管理人さんの話では、キャンプ場近くでも惚之芽(ウツギ)や濾油(シブキ)もあるがまだ早いとのこと、教えて戴いた蔦の蔓(ツギ)を摘む。その他は埼玉から持ってきた山菜を使い、山菜天ぷらを味わう。

今回の山行に先立ち、山菜の知識はないので本を読んできた。『医食同源』という言葉

と共に、『春苦味、夏は酢の物、秋辛味、冬は脂肪と合点して食え』(明治の漢方食養家石塚左玄の言葉)と記されていた。西洋医学による対処や薬、サプリメントに頼り過ぎず、「しっかりした食事から健康維持を!」と思う。

キャンプ場はGW前の平日のためか貸切である。満月に近い月明かりではあるが、星は埼玉より輝いていた。

朝方には鳥のさえずりが聞こえる。猛禽類と想っていた鳴き声は鹿とSmさんから教えてもらう。くねくね曲がったしだれ栗の群生を車から眺め霧訪山に向かう。

霧が訪れる山】20日



深田百名山の『雨飾山』などロマンチックな名前で登りたいと思う山がある。先日の栃木・茨城県境の花香月山(この山行でKkさんよりハナカリサンと読むと教えられる)。霧訪山(ギミツキ)もロマンチックな名前であり興味をそそられる。

る。

登山口から種類の異なる葎(クダ)が咲いている(名前不詳)。途中の池には新緑が水面に映っているが、やがて新緑も少なくなってくると嘯柴(ウツギ)の終わりがけた白い花が目に入ってくる。登るに連れて、嘯柴も咲き始めの花も



目立ってくる。新瀉の嚙柴の花の中心部はピンク色であったが、このの嚙柴は少し緑がかった黄色である。

急峻な尾根には岩団扇(ヒメヤシ)が咲いている。後に会った登山者に「トクワカソウを見たか？」と言われた。変種のトクワカソウなのかも知れない。

山頂に迫り着くと目の前の祠の脇にお目当ての翁草(ササキ)の花と蕾が、日射しをたっぷり浴びながら、雪の着いた南北・中央のアルプスを観ている。この絶滅危惧種は二株のみで、名前の翁が示すように白毛が花や葉についている、傍らには植栽したと思われる株が囲ってある。守屋山でも植栽保護されていた。



守屋山より北の山なので、北アルプスはより大きく、妙高方面の山々まで観える。

大芝山までの稜線も木々の芽吹きは始まっていない。登山道の両脇の林床には、樹間からの陽光を求める春の妖精(spring ephemeral)の片栗(タケノコ)、ニ輪草(フユギ)、延胡索(コホロギ)、黄花之甘菜(ギンナ)

フユギ、延胡索(コホロギ)などが時期的にはまだ満開には早いが見ている。ニ輪草と間違えて食べて中毒事故の多い鳥兜も混じっている。

谷あいでは咲いていると思っていた花々が稜線で観られ、しかもギフチョウも飛んできている。北アルプスは樹木越しにまだ見えている。素晴らしい景観で飽きが来ない。



霧は訪れなかったが、ロマンチックな「稜線の樂園の山」であった。同行して戴いた晴れ女に感謝します。



【山行日】
H 28年
4月19日
〜20日
【メンバー】
K 原塚
S 々木雅
K T

